

「小論文」採点基準説明書

1. 出題のねらい

この問題は、「紋切型を避けよ」を中心とする筆者の文章論に的確に反応できるかどうかをみるものである。根本的には、受験者が文章表現に対する自覚的な意識をもっているかを問うている。とくに、「情報集約的なわかりやすさ」とはちがった種類の「文章のよさ」、すなわち、書くことで自身の感受への気づきを促し、またそれを他者へと伝えるという種類の「文章のよさ」に対する感度をもっているかどうかを、問うている。

なお、この問題は、単に「文系の得意な人」を評価しようとするものではない。実習や講義で感じたことに対して自分なりの言葉を見つけつつ書くことは、自身の「気づき」を育てるうえで重要である。そしてこの作業は、自分の心の動きに対する鋭敏さだけでなく、患者や同僚の心の動きに対する鋭敏さを育てることもつながるものであり、医学生として必須のものといえる。

本学で、「社会科学」や「医療プロフェッショナルリズム」のような人間学系の授業において、eポートフォリオに日誌を書きつつ考える主体的な学びを推進しているのも、そのような考え方にもとづいている。

2. アドミッション・ポリシーとの対応

[対応するアドミッション・ポリシー]

1. 十分な基礎学力を持ち、自ら問題を発見し解決しようとする意欲のある人。
→自身の感覚を言語化し明確な「気づき」にすることの意義に対する感度があるか
3. 礼節を重んじながら自らの考えを他者に伝えるとともに、他者の多様な意見を理解しようとする協調性と柔軟性に富む人
→自分なりの言葉で書いて他者に対して伝えることの意義に対する感度があるか